

玉置の仕事場

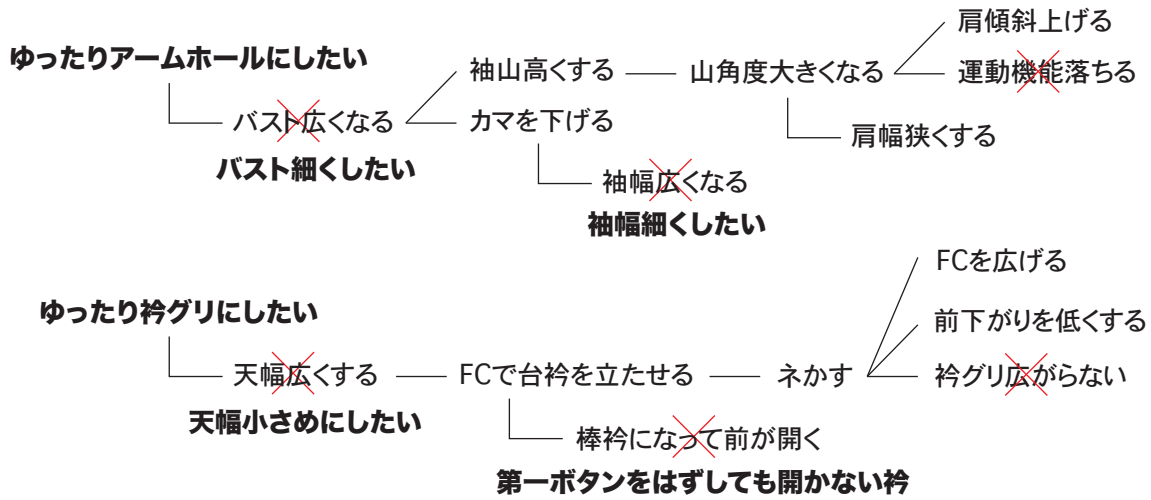
THE COMPLEAT OF READEY MADE CLOTHING

ONLINE LIVE WORKSHOP 230318

こだわりボタンダウンシャツ

こだわりポイント

- | | |
|--|---|
| 1 やや高め の 肩傾斜 | 6 大きめ の 衿グリ、低め の 前下がり |
| 2 細め の 袖、低い カマ 底 | 7 ボタンを外しても開かない衿 |
| 3 高め の 袖山、小さめ の 肩幅 | 8 オーセンティックな地 の 目と小さめ の 羽衿 |
| 4 細め の バスト、蹴回し | 9 ネクタイも OK、外しても OK |
| 5 ピリ の 出ないアームホール折り伏せ縫い | 10 羽衿ロール分 |



矛盾との戦い
それがパターンメイキング

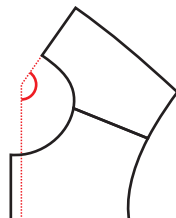


1. やや高めの肩傾斜

シャツなどに代表される男性用ミドルアイテムは、腕の動きに対応する運動機能が必要です。動きにくいジャケットから開放されたとき、シャツはできるだけ着やすくあって欲しいものです。シャツの素材はほとんどの場合ノンスト布帛となるため、運動機能を考慮して設計されたシャツは、顧客満足度も高くなると考えています。

肩傾斜 【144.8°】

$$144.8 / 2 - 90 = 17.6^\circ$$



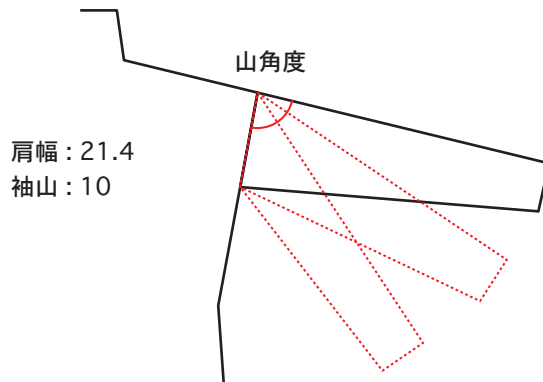
高い肩傾斜は、次に挙げる低いカマ底と合わせて、大きなアームホールを実現します。ゆったりリラックスできるアームホールであるためにも、肩傾斜はやや高めに設定したほうが良いと思います。

2. 細めの袖、低いカマ底

スッキリした見た目という観点から、袖は必要最小限の細さでありたいと思います。身幅などもそうですが、必要以上にゆとりが大きいのは、かえってブサイクというか、ダサさを感じてしまいます。そこで細めの袖幅ということになるのですが、でも上記したとおり、リラックス感が必要です。できるだけ着やすくありたいという思いから、アームホールは大きくしたいという思いもあります。そこでカマ底も低めに設定しました。カマを低くすることで、全体のアームホールが大きくなり、リラックスした袖幅がキープされます。

3. 高めの袖山、小さめの肩幅

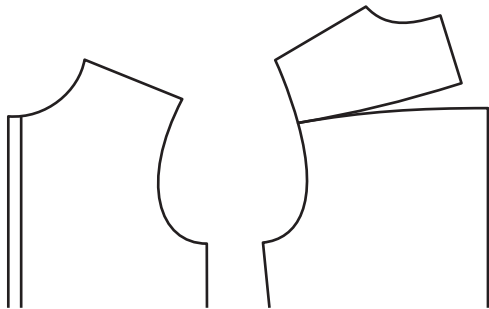
見た目は細く、しかしアームホールは大きくゆったりして欲しいという要求を満たすために、袖山は高めに設定しなければなりません。山が高ければ高いほど、アームホールの距離は長くなり、つまりアームホールは大きくなり、通常立位でのリラックス感が高まるからです。



しかし袖山が高くなるとは、肩線に対する山角度が大きくなるということなので、見た目のかっこよさを維持するため、肩幅を小さくしなければなりません。具体的には左のように設定しました。

4. 細めのバスト、蹴回し

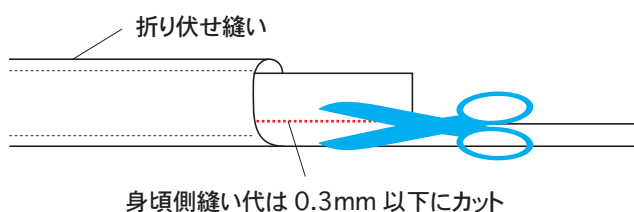
ベーシックアイテムほど、サイズ感、分量感が重要です。しかし既製服では、ここがなかなか自分の思いどおりになりません。シャツはパンツの内側に入れて着るため、横方向のゆとりが多すぎると形になりません。かといって細すぎるのはもっと困ります。縦横のバランス(黄金比)も考えつつ、ちょうど良い感じというのが大切なのですが、既製服で見つけるのは困難です。



上記した小さめの肩幅、細めのバスト、蹴回しは、どれも完成予想図として最初のドレーピングの段階でこれを想定しておく必要がありますが、バストや蹴回し肩幅等の具体的寸法調整は、原則として平面操作で対応します。

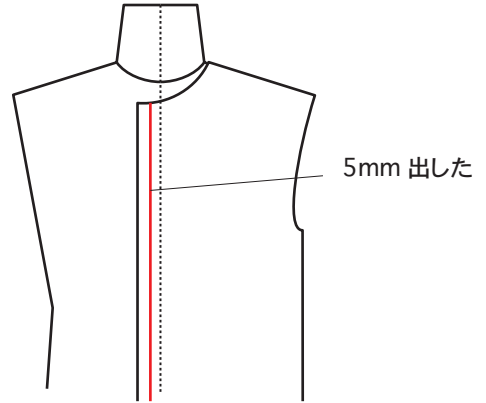
5. ピリの出ないアームホール折り伏せ縫い(巻き縫い)

アームホールを身頃高で処理する際、縫い代の距離が不足するためアームホールに無理がかかります。これを回避する方法はいくつかあると思いますが、今回は身頃側の縫い代を裁ち落とすという方法でやってみました。アームホールに対する袖の距離を、長くする方法を採る方が多いかと思いますが、袖をイセるのはかなりしんどいと思うので、僕はこちらの方が合理的だと考えています。



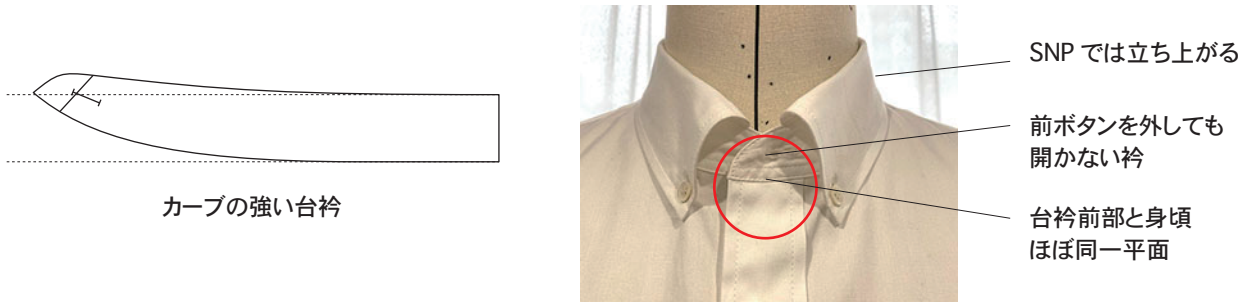
6. 大きめの衿グリ、低めの前下がリ

今回最も強くこだわったのが衿ですが、大きめの衿グリ、低めの前下がりは特に意識してドレーピングしました。自分の体型に合わせることはなるべくしたくないのですが、前幅だけは自分に合わせてしまいました。具体的にはダミーの前中心より約 5mm ほど出してドレーピングしました。



7. ボタンを外しても前が開かない衿

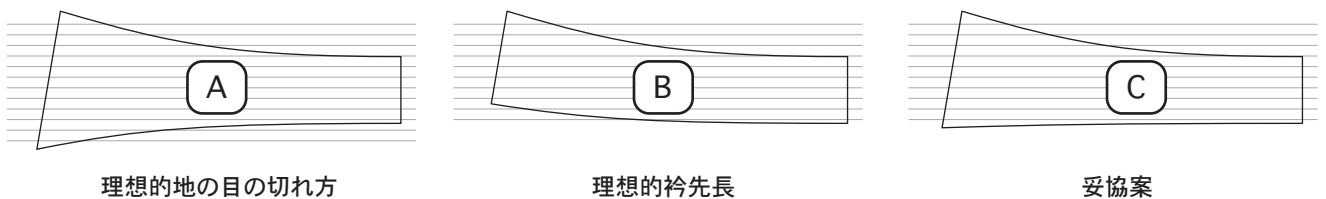
台衿は、甘くカーブが強いほど首に巻き付いてくる特性がありますが、これを利用することで第 1 ボタンを外しても前が開かない衿を表現できます。これも今回強くこだわった部位のひとつですが、気をつけたいのは SNP に於ける衿の表情です。甘い衿を意識すると、どうしても SNP で衿が寝てしまいます。これはかっこいいというより可愛いらしくなってしまうため、メンズのシャツとして僕は好みません。SNP では普通のシャツのようにしっかり立っていて欲しいのです。



更に前中心に於ける衿の立ち方も重要です。今回のシャツは前が開きにくいという点を実現するため、台衿の前部は、ほぼ身頃と同一平面になっています（赤丸部分）。メンズシャツのほとんどは大きな角度で立ち上がってきますが、ネクタイをする前提ならそれでも構いませんが、ノーネクタイのカジュアルを表現するには不向きとなります。

8. オーセンティックな地の目と小さめの羽衿

シャツは男性にとって重要なアイテムですから、こだわる箇所は多岐にわたります。中でも特に僕がこだわるのが衿の地の目です。台衿は見えなくなるためまだ許せますが、羽衿の地の目は許せない問題です。台衿カーブが強くなれば、必然的に羽衿カーブも強くなります。強くなっても衿先が長ければ、下図 A のように理想的な地の目でいけるのですが、僕はロングポイントはあまり好きではありません。B のように、衿先はできるだけ小さくしたいのです。そうなると地の目が許せなくなります。



B の地の目は決して許せませんが、C ならまだ、何とか許せる範囲となるため、また後で挙げる「ロール分」を利用できるという計算から、C の妥協案でやってみました。

9. ネクタイも OK、外しても OK

前ボタンを外しても開かない衿にしたいのは、ネクタイをしたときも外したときも、どちらでもカッコいい表情を見せたいからです。普通のドレスシャツはネクタイをしてはじめて様になるのですが、同じシャツでネクタイを外し、いかにもカジュアルに着てますという日曜日のお父さんを見ますが、これはいただけませんよね。世の男性にはこういうこだわりを持ってほしいです。



9. 羽衿ロール分

僕が普段着るシャツのほとんどがボタンダウンです。それは僕が若い頃、トラッドやアイビーといったオーセンティックなファッションで育ったことが大きいのだと思いますが、それ以上の理由として、レギュラーカラーは第一ボタンを止めて着ないと収まらない。更にクリースラインをしっかり付けないと収まらないという点です。これではどうしてもカジュアルが表現しにくくなってしまいます。

カジュアルっぽく着るために一番必要なのは第一ボタンを外すことです。そしてクリースラインが曖昧に、ぼやっと返っていて欲しいんです。前述したとおり、第一ボタンを外しても収まるような衿にするには、台衿も羽衿も甘くする必要があります。しかもロングポイントが嫌だとなると、衿は全体的に小さめになります。そうなれば地の目が問題になり、少なくとも柄物はダメです。無地なら何とかと思っても、クリースラインを甘く返すと収まりが悪くなるし、どうにも始末が悪いんです。

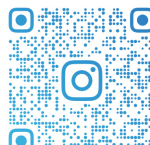


上の画像を見て欲しいのですが、ボタンダウンシャツの最大の利点は「ロール分」が加えられるという点だと思っています。地の目を解決するために仕方なく大きくした羽衿でしたが、ロール分を加えることによって、大きな衿先が小さく見えます。ネクタイをしたときも、レギュラーカラーだと衿先がハネてしまいがちなため、キーパーなどを仕込んだりしますが、ロールの入ったボタンダウンなら、ネクタイのノットを包み込むように自然に収まります。また外した時も、クリースラインがふんわりと曖昧に戻るため、カジュアルの柔らかさを表現できます。更にボタンの位置を変えることで、自分の好みのロール分量を再現できます。

パタンナーは服のメカニズムを良く理解し、襲ってくる多くの矛盾に対応しなければならないと言いました。それがパターンメイキングという仕事なんだと言いましたが、それでもこれが、売れる商品かどうかはわかりません。より多くのお客様に喜んでいただくために、ブランドがより大きな信頼を得るために、僕たちパタンナーが何をすべきか、考えていただければ幸いです。



玉置の職場
website



玉置の職場
Instagram